

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>本校の教育方針に則り、教職員が相互に連携し、生徒一人一人の特性を生かす教育指導を積極的にすすめることにより、自ら学び、自ら考え、自ら行動する心豊かな生徒を育てる。</p> <p>1 基礎基本を徹底するとともに活用する力を育成し、生徒全員の学力を向上させる。</p> <p>2 学校行事や部活動などを通して豊かな人間性をはぐくむ。</p> <p>3 3年間を見通した進路指導計画に基づいて、希望進路の実現を図る。</p> <p>4 社会の変化に対応し、より良い社会の構築に貢献できる力をはぐくむ。</p>	<p>1 学校改革が継続的に進められ、着実に成果をあげている中で、今後も継続して充実させる必要がある。</p> <p>2 落ち着いた学習・生活環境が維持できている。また、コロナ禍でも感染防止を徹底して学校行事を工夫して実施し、学校評価アンケートにおいて学校満足度が上昇した。</p> <p>3 生徒の希望進路の実現のため、進路指導部、学年、教科の連携により、難関大学に合格し、中堅私立大学の合格者が大幅に増加した。今後は生徒がより高い進路目標にチャレンジし、それを実現できる学力を身につけられるように尽力する必要がある。</p> <p>4 先行校として第1学年にBYODを導入し新たな授業方法に挑戦した。またICT公開授業等も含めて活用の共有に努めた。今後、実践を更に深めてゆく必要がある。</p>	<p>1 全ての教職員が関係情報を共有し、共通認識のもとで学校運営に参画する「チーム鴨沂」としてさらに生徒の人間性の醸成と学力向上を図る。</p> <p>2 充実した学校行事や部活動等をとおして、さらに豊かな人間性の醸成や協同して高次の目標を達成する力を身に付けさせる。</p> <p>3 令和4年度実施の新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行う。</p> <p>4 より高い進路目標実現のため、キャリア教育の充実とさらなる学力の向上を図る。</p> <p>5 BYODによるICT活用をさらに研究し、情報活用能力を育成し、新たな授業スタイルや効果的な活用方法の実践を目指す。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価	成果と課題		
組織・運営	◇役割分担を明確にするとともに教職員間の連携を深め、組織的な学校運営を図る。	◆分掌相互の連携を一層深め、全ての教職員が共通認識のもとで学校運営に参画する。	1	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌毎に工夫した取組が行われており、分掌間の連携が深まり、成果として表れた。 生徒に向き合う時間を充実させるため会議等を効率的に設定した。 欠席連絡システムが定着し生徒の出欠管理が効率化された。また、TeamsやClassiにより教職員間及び教職員と生徒・保護者との情報共有ができた。今後さらにICTを効果的に活用していきたい。 コロナ禍の中、PTAや地域との連携により、学校行事や交通安全指導等を実施し保護者参加も得て学校満足度の向上につながった。 窓口業務電話対応について丁寧に行うことができた。 	
		◆担任と副担任の連携を強化し、副担任の学級への関わりを深め、教科担当とも連絡を密にすることにより、学校全体で個々の生徒と向き合う教育活動を推進する。	2	B			
		◆各種会議の役割を明確にし、会議を効率的に運営することにより、教職員が生徒に向き合う時間の確保を目指す。	3	A			
	◇地域から信頼される学校づくりを行う。	◆教職員一人一人が創意工夫を凝らし、生徒、保護者、地域の満足度向上に努める。	4	B			B
		◆その時々々の成果と課題を分析し、外部の意見を積極的に取り入れた学校運営を行う。	5	B			
	◇教職員と事務部が連携し、地域のニーズ等に迅速・的確に応える。	◆生徒・保護者・地域の方等に対して、丁寧な窓口業務・電話対応に努め、また学校の様子をホームページやClassiを活用して発信する。	6	A			
学習指導	◇学びを人生や社会に生かそうとする力や人間性の育成を図る。	◆「総合的な探究の時間」等の学びの中で、学ぶ意義や方法について理解させ、主体的に学習する態度を育成する。	7	A			
		◆新学習指導要領の趣旨を教職員が理解し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行う。また、希望進路実現に向けた、思考力・判断力・表現力等の育成を重視した指導内容の計画・実践を徹底する。	8	B			
	◇新学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的な知識や技能の習得に加えそれらを活用する能力を養うとともに、自己管理能力の育成に努め、希望進路が実現できる学力を育成する。	◆BYOD活用も含めICT活用をさらに研究し、情報活用能力を育成し、新たな授業スタイルや効果的な活用方法の実践を目指す。	9	B	B		
		◆タブレット等の有効活用を積極的に促すことで、自学自習の習慣化や自己管理能力等を身に付けさせる。また、学校で	10	B			

		◆生徒の将来の社会的自立のためのキャリア教育の質を向上させる。	27	B		・適宜、関係機関等から情報収集を行うことができた。また、就職希望者の全員が内定できた。
人権教育	◇自他の生命や人権尊重の立場を明確にし、社会の一員としての自覚と行動ができる力を育成する。	◆学年部との連携を図り、継続した人権計画を立案し効果的な人権学習を実施する。	28	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習計画通り実施しできた。 ・年2回(6月・12月)のいじめアンケート全校調査を実施。担当教諭が各学年部と連携を図り個々の聞き取りをした。他者への配慮やコミュニケーションの取り方が課題 ・あらゆる場面で、人間関係を築くうえで何が大切かを伝えていくことを引き続き指導してゆきたい。
		◆いじめアンケートの実施により、その実態把握に努め、「いじめ防止対策推進法」「京都府いじめ防止基本方針」「鴨沂高等学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめ対策委員会を中心に組織的にいじめ未然防止を図り、「暴力・いじめ」を絶対に許さない気運を醸成する。	29	A		
		◆互いに尊重しあう人間関係を築き、多様性を認め合う寛容な心を育てる。	30	A		
主権者教育	◇18歳選挙権に対応し、主体的に社会に参画する能力を育成する。	◆学年部等と連携を図り、身近な地域を理解し、計画的・効果的な主権者教育を実施する。	31	A		・模擬選挙を実施し、実際の記載台・投票箱を使用して実施することによって、公民的資質が養われる機会となった。
特別支援教育	◇特別支援教育活動を充実させる。	◆進路先への引き継ぎを見据えて、必要な生徒に個別の指導計画を作成する。	32	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談会議や保健部研修などを通じて特別支援に関する共通認識を持つことが出来た。 ・本年度よりSCが新しくなり、カウンセリングが充実した。またSCも会議へ参加してもらい助言を得た。 ・本年度は個別の指導計画も計画通りの時期に実施することが出来た。
		◆教育相談会議の実施と充実を図り、生徒の情報と支援方法について、教職員間で協議し共通認識を持つことができるように工夫する。	33	A		
		◆気づきシートと個別シートの活用を充実させる。またSCを活用した教職員研修の実施や学習ボランティアを活用する。	34	A		
健康・安全教育	◇生徒が心身共に健康で安全な学校生活を送ることができるよう、環境を整える。	◆適切な保健管理・保健指導を保護者や関係諸機関と連携して取り組む。	35	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目において目標が達成できた。特に、本年度は、コロナ禍で実施できていなかった健康学習(飲酒防止セミナーと性教育講演会)を実施することができ、生徒アンケートからもよい学びになったという感想が多かった。 ・担任や教科担当、部活顧問と連携を図り生徒状況を共有することができた。また、感染防止の注意喚起も学年の協力もあり十分に実施できた。
		◆緊急対応に対する理解と安全管理に努める。また、新型コロナウイルス感染防止に向けた注意喚起を徹底する。	36	A		
		◆生徒の心身の問題への対応を全校体制で取り組む環境を整え、生徒の状況や支援方法を共有できるようにする。	37	A		
		◆来室連絡票を活用し、教科担当や担任との連携を図る。	38	A		
美化教育	◇生徒が快適に学習活動を行うことができるよう、校内美化に努める。	◆清掃活動の強化を行う。考査最終日や補習後の清掃を実施することで、学習環境の整備に努める。また、定期的に清掃点検・安全点検を実施する。	39	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各所で清掃を定着させ、学習環境の整備に努めた。中でもトイレ清掃時の立入禁止札設置により以前よりスムーズにトイレ清掃が行うことができた。 ・長期休業中に施設管理・技術職員の方々の協力によりモップクリーニングを行った。 ・保健委員会を通じて教室でのゴミの分別、雑がみ分別を呼びかけることで、生徒の美化意識を高めた。
		◆ゴミの分別を的確に行うとともに、大掃除において、清掃場所を追加して全生徒で清掃を行う。	40	A		
		◆美化週間を実施する。	41	A		
教育環境の整備	◇施設・設備を整備・充実させる。	◆施設設備の改修等の課題について、必要性和予算との関連などから費用対効果を勘案し施工していく。	42	A		・費用対効果を常に考えながら、施設設備の維持管理について、整備

		◆各種工事は、生徒の安心・安全を最優先に、学校経営に支障のないよう早急に対応する。	43	A	A	A	<p>の必要性と予算を勘案して対応するよう努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な小修繕や迅速に対応する業者の選定、生徒の安全や教育環境を確保するための休日の工事等で、施設設備のトラブル対処に努めた。 生徒一人一人の修学保障を常に考え、当事者意識をもって援助制度をよく周知し活用することができた。
	◇修学援護制度を周知し、活用できるよう支援する。	◆就学支援金制度や各種の修学援助制度について周知徹底を図るとともに、家計急変生徒等に対しても当事者意識をもって、タイムリーな制度活用に努める。	44	A			
家庭・地域社会との連携	◇広報活動を充実し、学校の情報を迅速に提供する。	◆ウェブサイトの工夫・更新やClassiを活用し、保護者等に積極的に学校の様子を発信する。	45	A		A	<ul style="list-style-type: none"> 各種学校説明会では毎回多くの参加があり、中学生・保護者に学校の様子を伝えることができた。 HPや広報誌などを通じて情報提供ができた。また、生徒の日常の様子を学年より保護者に配信することが出来た。 外部人材を活用した京都文化学習が推進できた。
	◇外部の人材を活用して教育活動を活性化する。	◆京都文化の学習、子どもの好奇心をくすぐる体験授業、フランスとの交流等において外部機関との連携を深め、効果的な学習を推進する。	46	A			

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> 「進路指導」項目の「B評価」についての質疑応答をとおして、現状に満足せず「建設的」に「まだ伸びしろがある」という意味でのB評価でありこれからも研鑽を続けて欲しいとエールをいただいた。 「主権者教育」項目の模擬選挙について、非常に良い取組であるとの評価とともに、実際の選挙に運営で関わっておられる立場から、「18歳の新成人の最初の投票時」に起こる事例などをお話しいただき、地域の方と共同で主権者教育を実施する案などの提案もいただいた。 地域の方や警察、PTAと合同の朝の交通安全指導について、生徒の挨拶や登校の様子がとても良く、今後の社会に出る礎となると評価していただいた。また、何年も継続して参加していただいている委員からは、近年の生徒の様子について、特にそれが顕著であるとお言葉であった。 校則見直しについて、社会的な流れを鑑み適切な方向性であるとの評価をいただいた。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 個々の教職員が自分の果たすべき役割を自覚し、全ての教職員が共通認識のもとで学校運営に参画する「チーム鴨沂」を更に推進する。 新学習指導要領実施2年目にあたり、生徒の個別最適な学びの実現に向けた授業改善や学習支援を推進し生徒の希望進路の実現を図る。 探究的な学習の学びを深め、「総合的な探究の時間」を中心に、生徒の自己肯定感を高め、学力向上に繋げる取組を推進する。 特別な支援を要する生徒への対応については、ノーマライゼーションの観点から、学校の教育力全体の向上につながるよう取り組む。 保護者、同窓会、地域等との連携を強化し、保護者や学校関係者と教職員が協力して生徒の教育の向上を目指す。 新型コロナウイルス感染症への対応が変化する中で、出来ていなかった国際交流や他校との交流等の取組を充実させる。
---------------	--